

## 工学部独自の取り組み

工学研究科では独立法人化を機に、7つの室（運営企画室、教育学務室、社会連携室、評価室、財務室、総務広報室（平成20年度から総務室）、国際交流室）が研究科長・評議員・副研究科長・室長からなる役員会の下に配置されている。平成17年度にフロンティア研究機構（文部科学省科学技術振興調整費戦略的研究拠点育成プログラム）のサポートにより実施されたFRCプロジェクト「科学・工学領域の女性研究者増加可能性をめぐって－課題の検討と大阪大学大学院工学研究科への提案－」からの提案を受けて、平成18年度、総務広報室内に男女共同参画ワーキンググループが新たに設置され、目標値「外国籍および女性教員の比率20%以上」を達成する方策を検討することになった。そのワーキンググループの主査は総務広報室員が務め、工学部5学科（応用自然科学科、応用理工学科、電子情報工学科、環境・エネルギー工学科、地球総合工学科）からの推薦のメンバー（5名）と主査推薦のメンバー（5名、平成20年度からは6名）からなっている。平成21年度のメンバー構成は男性教員（教授、准教授）6名、女性教員（教授、准教授、講師、助教）6名であり、女性教員比率50%となっている。

工学研究科では男女共同参画ワーキンググループを中心として、下記の取り組みを行っている。

### 1. 女子高校生のためのオープンキャンパス

女性研究者の卵である女子学生構成比率を高めることを目的に、平成19年度から毎年、工学部オープンキャンパスの際に「女子高校生のためのオープンキャンパス」を実施している。このイベントは講演会と懇親交流会の2部構成となっている。

講演会では、現役の女性研究者・技術者・学生からのメッセージを通して、女子高校生



図 3-1-1 女子高校生のためのオープンキャンパス（講演会）

に工学分野における自分自身の新しい可能性を見出してもらうことを目的としている。具体的には、各方面で活躍されている女性研究者・技術者を主に学外から迎え、研究の面白さは勿論のこと、キャリアパス形成で直面した様々なエピソードについて紹介していただいている（図 1）。また、現役の女子大生には各自の研究内容に加えて、入学後の学生生活について紹介していただいております、平成 20 年度は大学院生に、平成 21 年度は学部生に講師をお願いした。これまでに実施した講演会のプログラムは下記の通りである。

---

<平成 19 年度>

平成 19 年 8 月 10 日（コンベンションセンター2 階会議室）、参加者数 103 名

（1）挨拶

大阪大学大学院工学研究科 研究科長 豊田 政男

（2）基調講演 「ようこそ工学部へ」

（独）産業技術総合研究所 男女共同参画室 相馬 芳枝

（3）活躍される女性研究者・技術者からのメッセージ

人間生活工学研究センター 畠中 順子

大阪府立工業高等専門学校 中谷 敬子

松下電工株式会社 常定 扶美

<平成 20 年度>

平成 20 年 8 月 8 日（コンベンションセンター2 階会議室）、参加者数 113 名

（1）挨拶

大阪大学大学院工学研究科 研究科長 馬場 章夫

（2）活躍されている女性研究者・技術者からのメッセージ

大阪府立工業高等専門学校 中谷 敬子

人間生活工学研究センター 畠中 順子

（3）女子阪大生からのメッセージ

応用化学専攻 田村はるか

電気電子情報工学専攻 佐藤 慶子

地球総合工学専攻 塚本 泉

<平成 21 年度>

平成 21 年 8 月 11 日（コンベンションセンター2 階会議室）、参加者数 145 名

（1）挨拶

大阪大学大学院工学研究科 研究科長 馬場 章夫

（2）活躍されている女性研究者・技術者からのメッセージ

大阪府立工業高等専門学校 中谷 敬子

大阪大学大学院工学研究科 加賀有津子

（3）女子阪大生からのメッセージ

応用自然科学科 新田 洋子、日浅 夏希  
電子情報工学科 森下 美希  
環境・エネルギー工学科 熊倉 寛子

---

一方、懇親交流会では、女子高校生が工学分野に抱いている夢や希望、入学後の学生生活について意見交換を行い、進路選択に役立ててもらうことを目的としている。懇親交流会は講演会に引き続いて学内レストランで開催し、ワーキンググループメンバーは勿論のこと、講演会の講師や各専攻からの女子大学院生にも参加していただいている（図2）。参加者数は毎回、50名程度であるが、女子高校生が興味ある工学分野の教員・学生を捕まえて、熱心に質問をしている光景は印象的である。



図 3-1-2 女子高校生のためのオープンキャンパス（交流懇親会）

## 2. 女性研究者とその卵達の集い

工学研究科・工学部における女子学生比率は専攻・学科に依存して、大きな偏りがあるのが現状である。本取り組みは、女性教員・研究者・学生が簡単な食事や飲物を手に、これまでの学生生活や研究活動についての意見交換を行い、学科や専攻の壁を超えて相互の交流を深めること（専攻・学科横断型ネットワークの構築）を目的としている。平成19年度より毎年1回、学内レストランにおいて開催している（平成20年3月18日、平成21年1月21日）。参加者数は、初回の平成19年度は33名、平成20年度は65名と倍増しており、その関心の高さが伺える（図3）。一方、イベント開催にあたり、「男女共同参画にご関心のある男性教員や男性研究者の参加も大いに歓迎です」と案内していることから、毎回数名の男性教員・男子学生の参加がある。尚、今年度は来年1月中旬に開催する予定である。



図 3-2-1 女性研究者とその卵達の集い

### 3. ラジオ番組「どんなかな？工学部」

工学研究科では広報委員会を中心として、平成17年度より大学進学を目指す高校生・受験生およびその保護者等を対象にラジオ番組「どんなかな？工学部」（朝日放送）を放送している。本番組は、工学研究科の教員と朝日放送アナウンサーの対談により、研究内容の紹介・解説や、キャンパスライフの実態などを紹介するものである。平成18年度からは男女共同参画の一環として、女性教員は勿論のこと、女子学生もゲストとして迎え、工学分野に関する興味や、学生時代の思い出、進路選択時の経験、大学時代の研究がどのように仕事に活かされているか等について情報発信を行っている。

### 4. 女性教職員・研究者・学生を対象とした環境の整備

工学研究科では平素より女性教職員・研究者・学生を対象とした環境の整備に取り組んでいる。女性教職員・研究者・学生を対象とした休憩室・更衣室は既にいくつか設置しているが、平成21年度、授乳・搾乳が行える環境を備えた休憩室（1室）を新たに独自に設置することとした。